

(環境・郷土) 額田中学校 1年

ふるさと額田の環境

4月～2月(25時間)

1 ねらい

岡崎市では1年生の総合的な学習の時間は「岡崎市環境学習プログラム」でも環境をテーマにしている、環境問題を考えることで知識が深まり、生徒たちの考えが発信源となって地域での共生社会が築かれていくことを目標としている。

本校では、ふるさとの自然を守り地域や学校に貢献できる活動をするを通して、環境に対する意識を高め、ふるさとを愛する気持ちを育てていこうと「ふるさと額田の環境」について学習し、「地域の人たちと森林を守る」ことに対する取り組みを実践した。

2 実践の概要

① 活動計画

4月	オリエンテーション、小学校での総合的な学習の時間の紹介
5月～6月	読本「ぬかた」による学習、森林学習会
7月	森林学習会(西三事務所 福井様、森林教会 山本様) 寮の裏山の様子を観察
7月	間伐体験学習(千万町町。愛知県野外教育センター前)
9月～12月	間伐の利用計画、岡崎市環境プログラム
1月～2月	間伐材の利用

② 活動の実際

ア 森林学習会

小学校の総合的な学習の時間の紹介から、環境破壊を食い止めるには山林保護が大切であることに気づき、森林についてふるさと読本ぬかたや、各種資料を読んで理解を深めた。また本校が継続的に環境問題に取り組んできた成果や先輩たちの具体的な取り組みの紹介をすることで、関心を持って活動に臨めるようにした。そのうえで森林学習会を計画した。講師に、西三河農林水産事務所林務課の福井様と額田林業クラブ会長の山本様をお招きした。その内容は

○日本や額田の森林の現状

○プレゼンテーションソフトを使用して日本や額田の森林について

(二酸化酸素の吸収、森林の働き、間伐の必要性)、

などであった、その後、寮の裏山に入り、手入れがされていない森林は木の間隔が狭く、暗くて日光がほとんど差し込まない。そのため下草や低木が生えず、地面が弱くなり土が流れ出してしまうことを話していただいた。生徒はこのように実際に見聞きしたことで、今の森林が抱えている問題点や地元の額田の山を守るために多くの方が活躍していることを知った。

その後学習したことで次の三点からの観点でまとめた。

① 森林の働き ② 間伐の必要な理由 ③ 間伐体験の目標

生徒たちはそれぞれ工夫して絵や図を入れて、レポートをまとめた。このことを通じて、額田の自然の将来に関心を持つことができた。

イ 間伐体験学習

生徒はこのような学習会を経て、自分たちで実際に間伐をしてみたいと思うようになった。そこで、西三事務所と市役所の林務課、岡崎森林組合、額田林業クラブの方々のご協力を得て、千万町町にある愛知県野外教育センター前の森林で間伐体験を行わせていただいた。

一人の指導者に対して8人ほどの生徒で構成されたグループで5本程度の間伐体験ができた。木を倒す方向を決め、木に登りロープをかける。チェーンソーで三角形の受け口を切って、ロープを引っ張りながら倒していく。倒した木はその後の加工のことを考えて、長さ2mの丸太にしてもらい皮をむく。皮は想像以上に水分を多く含んでいた。生徒は「森林は自然のダム」であると再確認できた。また、木の上に登ったり、チェーンソーで実際に切る作業を体験することで間伐の苦勞も知り、その中で環境を守るための間伐の大切さを理解した。



ウ 間伐材の利用

生徒は、間伐した木をベンチに加工して地域のさまざまな場所で使ってもらいたいと考えた。寄贈先は老人介護施設や出身の小学校を考えた。

製材された木は厚みがある角材が多く、製作には大型機械や電動工具など危険なものもあるが、生徒は慎重にかつ楽しみながら製作することができた。

出来上がった作品は、地域の小学校や施設などに寄贈した。

3 実践を振り返って

額田中学校の学区面積は岡崎市の41%にあたり、その総面積の86%を森林が占める山間の地域である。かつては林業で生活を成り立たせている方も多くいたが、後継ぎがいなかったり、儲からなかったりしたり、仕事のきつさで手入れされずに放置されている森林が多くある。自然環境に大変恵まれている額田中学校だからこそできる活動を考えて、環境問題に取り組んでいきたい。また継続することで地域全体で環境問題に取り組み、継続して実践することで、生徒たちの環境に対する興味関心を高め、自分でできる身近なことから始め、環境を守るための活動ができる生徒を育てていきたい。